

一日一言

野澤武藏

警城新聞の所論を解く

二十六、七兩日附発行の警城新聞、この運動で着工遅延は些新聞掲載の平小鐵道論を熱讀したものは、恐らく奇異の感を抱いたことであらう、若し不幸にして見落した市民があるとす、尚警城海岸軌道の廣軌道請願曲筆し「同路線が敷設されても小名濱港に利用出来ないから、港灣は死港に終る」と断じてゐる。

二十六日附警新紙を要譯すれば「鐵道當局は独自の立場から最良の路線を決定、近く着工の機運に漕ぎつけ、一部から非常な歡喜を以て正式發表を期待されてゐた」と湯本廻りに路線決定を諷刺し、然もこの線を以て優良路線と断定してゐる、更に片濱運動に依つて當局が所信を斷乎邁進するの權能あるとは謂へ、滿更地方民の動向を關心外に置けず

「この際相容れぬ兩派の相刺戟擦に依つて或る種の風波を捲き起すが如き云々」と片濱路線の對立運動が禍ひしつゝあることをほのめかしてゐる湯本側の運動は昨年五月石川町長存生時代から行つてゐない、然るに兩派の對立運動云々は、とりも直さず片濱側に對し白紙還元派の運動を意味するものであつて、白紙還元派は言を左右するも湯本運動に愛身をやつしてゐるのだと斷言されても過言であるまい

市民にとつて看過出来ない重大な意志表示であり、一部市民から遂に馬脚を現はしたものと云はれてゐる、警新紙の報ずる如く、片濱運動に依つて湯本線決定が牽制され、鐵道側が再考しつゝあるは片濱運動の目的とするところで、市民は寧ろ双手を擧げて凱歌を奏すべきであらう

警新紙の論

海濱軌道の出願が日曹専用線なら、問題無くとうの昔に許可されてゐるもので、同社は小名濱港の利用價值を高め、地方民の要望を容れて一般貨物と旅客を扱ひ得る地方鐵道を請願して居り、片濱を經由小名濱から泉崎へ抜ける環狀線の價值を鐵道側も考慮を拂つてゐる所以である、如上の事實から軌道の地方鐵道出願は片濱運動と切り離すことの出来ないことは今更言を要しないであらう

二十七日附の警新は「延期の禍因は」と題し、平小鐵道が暗礁に擱座したのは、今度の片濱運動に原因してゐる如く論じ、最後に二十六日附の記事中に「白紙派が恰も片濱廻りの運動と對立抗争の立場にある如く解さるゝ結果と成つたのでその真相であると信する点につき」と訂正文に済しい記事を掲げて諒解を求めてゐる

二十六日附所論の反響が豫想外大きかつたのに狼狽した白紙派以上は警新紙の要譯であるが更に同紙を熱讀御批判を乞ふ

中古各種レール鐵管
礦山用機械・機具類
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
と買賣仲介

合資 平銅鐵機械商會
代表社員 井尻七三郎
平市銀治町九番電話五三三番

御買上品は精々御安く納品致します
御拂下げ品は精々高價に買受けます

電話五九二番
に變りました

喫茶
食事
酒場
兼ねた

レストラン サロ
平市銀座街

十一屋食堂
平局前電話三七三番
出前迅速
女店員・コック見習至急入用

最新流行の
下駄と草履
ドコヨリモ安い 三井履物店
平南町電話一八一番

魚清なべ料理
自慢のなべ料理
鳥なべ・ちりなべ・よせなべ・ねぎなべ
かきなべ・はもなべ・あんこなべ・その他

出前 平三急便
速 魚清食堂
出前持・炊事婦入用
電話六三三番

吸入用酸素純度99%
モノサシ
ハカリ
マス
体温器
寒暖計

寫眞機
材料一式

關内藥局
電話四〇番

看護婦家政婦
派出致します
平市南町
平看護婦會
會長 清野キヨ
電話三〇七番

耳鼻咽喉科
レントゲン科
醫學博士 高柳博明
平市驛前【電話三三六】

かまぼく製造
折詰生魚
お惣菜さつま揚・吉原揚
平市一丁目
不味賣
配達人至急入用
電話一四一番
年齢不問、住込の事

西村屋藥局
電話三番です
藥品百貨の店です
寫眞機材料の店です
平市本町二丁目
西村屋藥局

太鼓各種
神社佛閣用太鼓
武徳道場用太鼓
歡送迎用音楽隊樂器(タナベ製品)
平市六丁目
佐藤太鼓樂器店
電話四八三